
不活性ガス消火設備及びハロゲン化物

消火設備制御盤

型式：MYTPF1-A




取扱説明書

モリタ宮田工業株式会社

2023年7月

安全上のご注意

取扱説明書および製品には、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、次の絵表示を使用しています。内容をよくご理解いただいた上で本文をお読みください。

 危険	この表示は取扱を誤った場合、死亡又は重傷等の重大な人的被害が想定される場合です。
 警告	この表示は取扱を誤った場合、傷害等の人的被害や、設備不作動等で機能に重大な悪影響を及ぼす可能性が想定される場合です。
 注意	この表示は取扱を誤った場合、本設備の機能障害や誤作動等が想定される場合です。及び、本設備の機能維持に必要な注意事項です。

ご留意事項

- 本取扱説明書の内容（全部または一部）を無断転載することは禁じられています。
- 本取扱説明書の内容は将来予告無しに変更することがあります。
- 本取扱説明書は関係者がいつでも利用できるように管理してください。

目次

1	まえがき	4
2	概要	5
2. 1	特長	5
2. 2	構成	5
2. 3	型式	6
2. 4	仕様	7
2. 5	外形名称	9
2. 6	内部配置	9
2. 7	操作・表示部	10
2. 8	主制御基板	11
2. 9	音声警報装置	11
2. 10	非常電源装置	12
3	操作方法	13
3. 1	電源投入前	13
3. 2	電源投入・切断	13
3. 3	起動	14
3. 4	自動と手動の切替え	15
3. 5	自動起動方式	15
3. 6	フローチャート（自動起動方式）	16
3. 7	手動起動方式	17
3. 8	フローチャート（手動起動方式）	18
3. 9	消火剤放出後の嚴重注意事項	19
3. 10	復旧	20
4	オプション	21
5	予備品／付属品リスト	21
6	トラブル発生時の対処方法	222
6. 1	トラブルシューティング	22
6. 2	短絡・地絡検出機能	24
6. 3	断線検出機能	24
6. 4	ヒューズ溶断	25
6. 5	停電および電源故障時の警報動作	25
6. 6	非常電源装置の各ブレーカーの作動	26
7	保守管理	27
7. 1	日常点検	27
7. 2	定期点検	27
7. 3	蓄電池試験	27
8	ご不明な点や故障に関するお問い合わせ先	28

1 まえがき

このたびは、弊社の消火設備機器をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品は不活性ガス又はハロンガス（以下：消火剤）を放出するパッケージ消火設備制御盤（以下：本制御盤）です。

この取扱説明書は本制御盤を正しく安全に使用していただくためのものです。

本制御盤は、（一財）日本消防設備安全センターの型式認定取得品です。



警告

- よくお読みのうえ、理解していただくまでは本制御盤を使用しないでください。
- 設置工事や改造をする場合は別途「施工要領書」を参照してください。
- 本制御盤は関係者以外、絶対に手を触れないでください。
- 区画内に入室するときは、必ず手動にすること。自動では火災信号と連動して消火剤が自動的に放出されます。
- 回路異常表示灯の点灯時は本取扱説明書を参照し適切に対処してください。
- 本制御盤は消火設備用です。それ以外の用途に使用しないでください。
- 各制御ユニットを分解しないでください。

2 概要

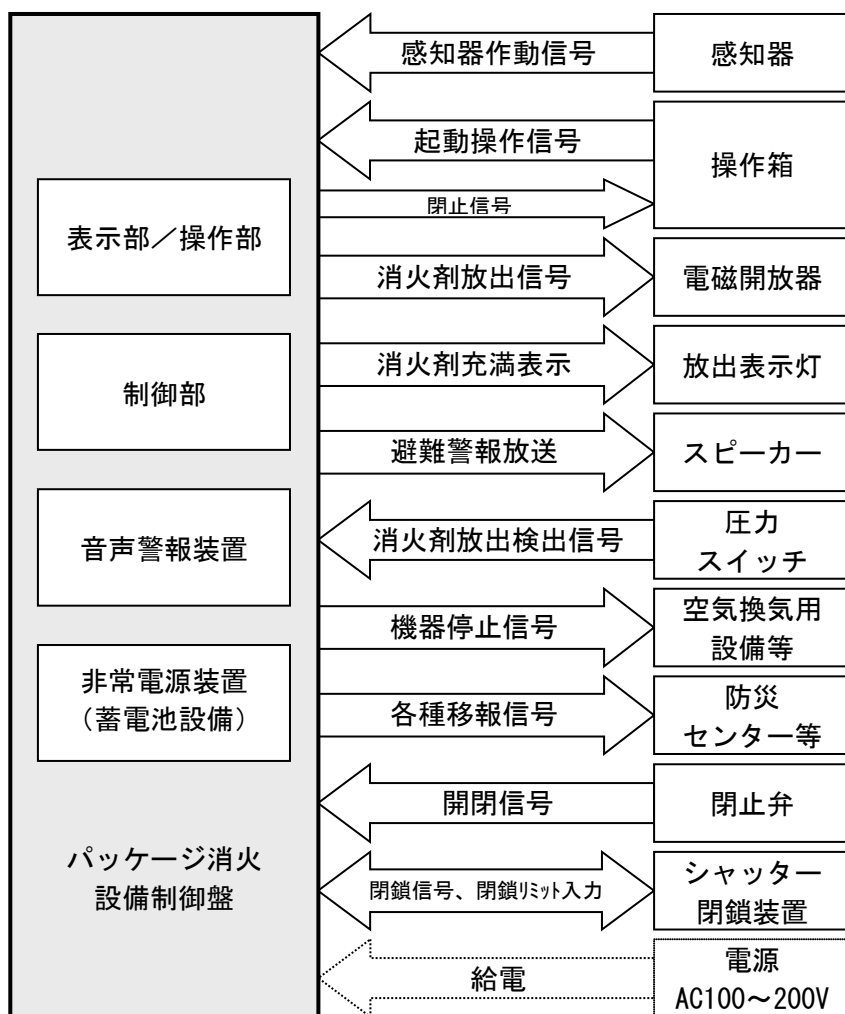
本制御盤は各種外部機器を接続して火災時に消火剤を放出します。

操作箱あるいは感知器からの信号を受信して音声警報装置を作動させると同時に消火設備の起動、遅延装置の作動、消火剤の放出、各種機器の停止、自動火災報知設備等への信号出力を行います。

2.1 特長

- 本制御盤、操作箱に放出遅延時間のデジタル表示付きで消火剤放出までの残り時間が明確にわかります。
- 各種外部機器に合わせて蓄電池容量を 7.2、15Ah の選択が可能です。(標準は 15Ah です。)
- 放出表示灯は点灯式で視認性が高くなっています。
- 操作箱への起動線は安全対策(短絡、地絡検出)で常時監視を行い誤放出防止、配線異常の早期発見が可能です。
- 感知器、電磁開放器は常時、断線の常時監視を行い配線異常の早期発見が可能です。

2.2 構成



2. 3 型式

本制御盤は（一財）日本消防設備安全センターの型式認定取得品です。

種別	消火設備（不活性ガス消火設備及びハロゲン化物消火設備の制御盤）
型式記号	MYTPF1-A
分類番号	□-△n-○
	□：閉止弁有無 V1：閉止弁有り V0：閉止弁無し △：容器サイズ 9：83L 8：82.5L 6：68L n：容器本数 1：1本用 2：2本用 ○：蓄電池容量 7 ：24V、7.2Ah 15 ：24V、15Ah
認定番号	制-104号
起動方式	自動式
非常用電源	蓄電池設備内蔵

本制御盤を認定品として使用するときは次の操作箱を使用すること。

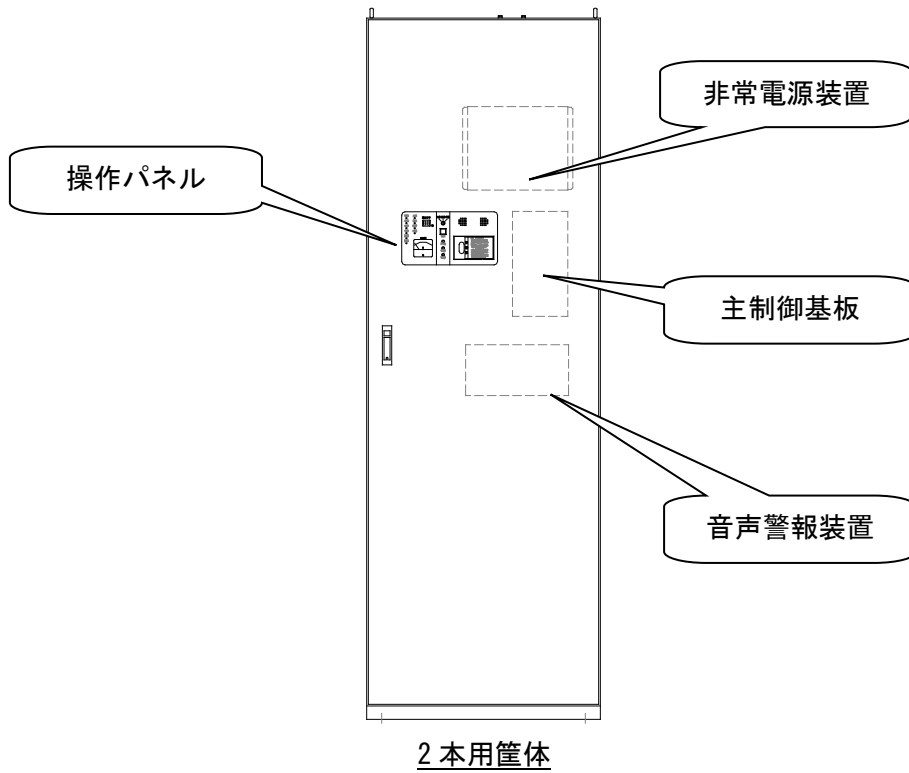
種別	消火設備（不活性ガス消火設備及びハロゲン化物消火設備の操作箱）
型式記号	MA-02
分類番号	MA○-□-K
	□：閉止弁有無 V1：閉止弁有り V0：閉止弁無し ○：外形形状 W：露出型 F：埋込型 O：屋外型
評定番号	評第14-389号

2. 4 仕様

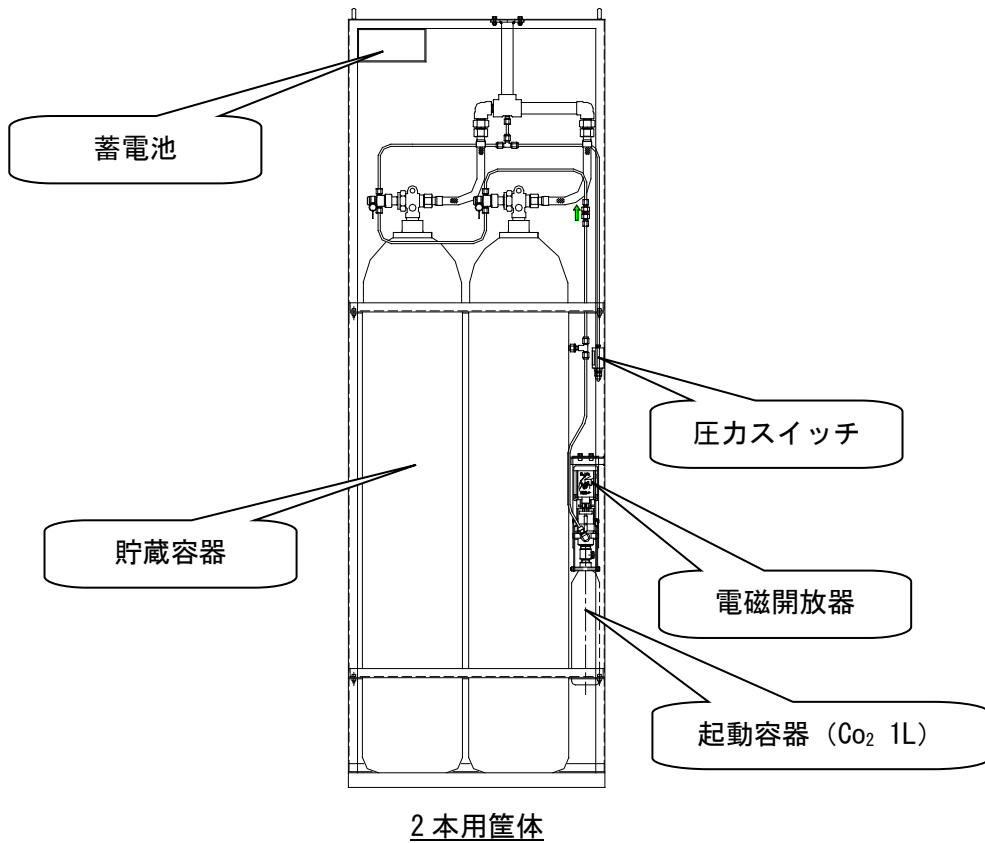
構造	材質	SPCC t=1.6mm
	塗装	マンセル 5Y7/1 半ツヤ (アイボリー)
	外形寸法	2 本用 : W700×D400×H 2100 1 本用 : W500×D400×H 2100
使用環境		温度 : 0~40℃ 湿度 : 85%RH 以下 (結露しないこと)
非常電源 装置 (蓄電池 設備)	型名	MDS1-24-6 (JEA 蓄電池設備認定委員会認定品)
	入力電源	AC100~200V±10% 50/60Hz
	負荷電圧	21.6V~26.4V
	負荷電流	常時 2.5A まで (7.2Ah 使用の場合)
	充電電圧	27.3V±2%
	蓄電池 (バッテリー)	小型シール鉛蓄電池 (JEA 蓄電池設備認定委員会認定品) 24V、7.2Ah/15Ah (選択可)
音声警報 装置	型式記号	MYTVO-2
	認定番号	AA-037 号
	音声定格出力	2W
	出カインピーダンス	500Ω (250Ω オプション可能)
	スピーカー 接続個数	20 個以下/区画 (定格入力 1W に設定)
	音量調整機能	有り
	音声内容	変更可能 (4 オプション参照)
	2チャンネル方式	対応可能 (4 オプション参照)
外部配線抵抗		往復 50Ω 以下
感知器終端抵抗		10kΩ (1/4W 以上)

ヒューズ	24V、5A	
放出遅延時間	標準 20 秒（1～99 秒の間に設定可能）	
電磁開放器	作動後約 5 秒で復旧	
接地	D種接地	
ブザー	火災時、起動時、放出時、短絡時、地絡時、断線時	
シャッター閉鎖機能	対応可能（4 オプション参照）	
機器停止動作タイミング	変更可能（4 オプション参照）	
放出表示灯の点滅／点灯	変更可能（4 オプション参照）	
モニタースピーカー	内蔵	
短絡・地絡検出機能	6. 2 短絡・地絡検出機能参照	
断線検出機能	6. 3 断線検出機能参照	
機器停止	3c, 定格負荷 DC30V 3A / AC250V 3A	
移 報	火災	1a, 定格負荷 DC30V 0.5A
	起動	1a, 定格負荷 DC30V 0.5A
	放出	1a, 定格負荷 DC30V 0.5A
	シャッター閉鎖	1a, 定格負荷 DC30V 0.5A
	回路異常	1a, 定格負荷 DC30V 0.5A
	自動	1a, 定格負荷 DC30V 0.5A
	手動	1a, 定格負荷 DC30V 0.5A
	感知器	1a, 定格負荷 DC30V 0.5A × 2

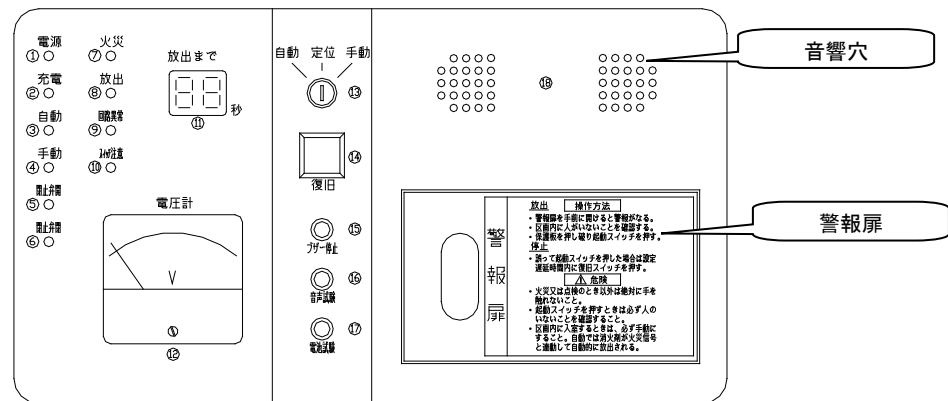
2. 5 外形名称



2. 6 内部配置



2. 7 操作・表示部




名称	色	常時	説明
電源灯	緑色	点灯	制御部に電源投入で点灯。
充電灯	黄色	点灯	蓄電池に充電中で点灯。
自動灯	橙色	-	自動設定時点灯。
手動灯	緑色	-	手動設定時点灯。(初期設定)
閉止弁開灯	緑色	点灯	閉止弁が開放で点灯。
閉止弁閉灯	赤色	消灯	閉止弁が閉鎖で点滅。
火災灯	赤色	消灯	操作箱の警報扉開、感知器 A 又は B 作動時、点滅。 操作箱の起動押釦押下時、点灯。 感知器 A、B 作動時、点灯。(自動設定時)
放出灯	黄色	消灯	消火剤放出で点滅。
回路異常灯	橙色	消灯	回路異常時点灯
スイッチ注意灯	橙色	消灯	ブザー停止スイッチで停止中に点滅。
遅延タイマー表示灯	赤色	消灯	起動と同時に放出遅延時間をカウントダウン表示。
電圧計	-	-	常時 (充電中) : 約 27.3V 蓄電池試験時 : 約 24V
自動手動切替スイッチ	-	定位	手動にする場合、手動側に切替えてから定位に戻します。 自動にする場合、自動側に切替えてから定位に戻します。
復旧スイッチ	-	定位	押すと初期状態になります。(ただし、消火剤放出後は「3. 10 復旧について」を参照してください)
ブザー停止スイッチ	-	-	押すと内蔵ブザーの鳴動を停止できます。同時にスイッチ注意灯が点滅します。
音声試験スイッチ	-	-	押すと音声警報装置が作動し音声出力テストができます。
電池試験スイッチ	-	-	蓄電池試験用スイッチ
警報扉			本体から手動起動するばあいに、この扉を開き、起動スイッチを押します。

2. 8 主制御基板

名称	色	常時	説明
L A 灯	赤色	消灯	電源短絡 電源(P1)一起動(SM)
L B 灯	赤色	消灯	警報短絡 扉開(AL)一起動(SM)
L C 灯	赤色	消灯	停止短絡 停止(MC)一起動(SM)
L D 灯	赤色	消灯	地 絡 筐体(FG)一起動(SM)
L E 灯	赤色	消灯	故障一括 LA~LD 点灯時、点灯
L F 灯	赤色	消灯	感知器 1 断線 電源(P1)一感知器 1 (FD1)
L G 灯	赤色	消灯	感知器 2 断線 電源(P1)一感知器 2 (FD1)
L H 灯	赤色	消灯	電磁カッター断線 電磁開放器(CV-CV0)
L I 灯	赤色	消灯	電源故障
U 4			放出遅延時間制御用 I C
D S W 1			放出遅延時間切替え用スイッチ

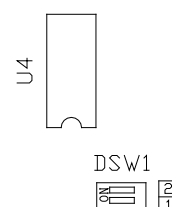
放出遅延時間の設定


危険

- 放出遅延時間の設定変更は本制御盤と操作箱の両方を同じ設定にしてください。
- 設定変更後は本制御盤と操作箱が設定通りになっているか確認してください。設定を間違えるとカウントダウン前に放出される場合やカウントダウン後もすぐに放出されない場合があります。

標準設定は 20 秒です。DSW1 で次のように変更することが出来ます。

放出遅延時間	U4	
	1	2
5 秒	OFF	OFF
20 秒 標準	OFF	ON
30 秒	ON	OFF
40 秒	ON	ON

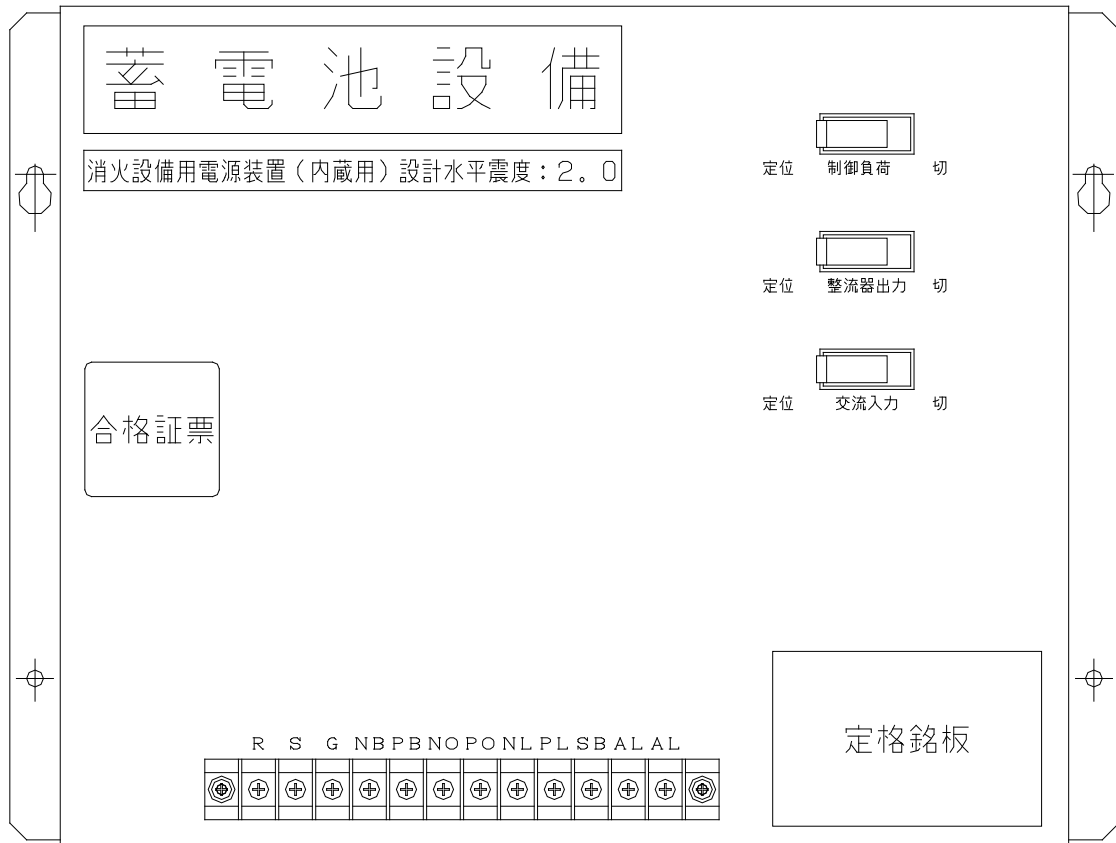


上記以外の放出遅延時間の設定が必要な場合は U4 を変更することで対応可能です。必要な場合はお問い合わせください。

2. 9 音声警報装置

カバーを取り外し、基板上のボリュームで音量調整することが可能です。常時は最大(右回し)にすること。

2. 10 非常電源装置



名称	色	常時	説明
交流入力	—	ON	交流入力遮断用
整流器出力	—	ON	安定化電源出力遮断用
制御負荷	—	ON	制御負荷遮断用

3 操作方法

3. 1 電源投入前

- 接続機器、外部配線が仕様通りであることを本取扱説明書と施工要領書を確認してください。
- 蓄電池への配線間違いがないか確認してください。
- 連動する設備がある場合は工事会社、設備会社等と十分な調整をおこなってください。
- 電磁開放器が容器弁または起動ポンベに取付けられていないことを確認してください。

3. 2 電源投入・切断

非常電源装置の電源投入は、下側から交流入力→整流器出力→制御負荷の順番にブレーカーをONします。順番を守らないと電源を投入できなかつたり、蓄電池や回路を傷める危険があります。

非常電源装置の電源切断は、上側から制御負荷→整流器出力→交流入力の順番にブレーカーをOFFして下さい。順番を守らないと蓄電池や回路を傷める危険性があります。

電源投入後、次の状態を確認します。

制御盤

- ・電源灯 点灯
- ・充電灯 点灯
- ・直流電圧計 充電電圧を表示（約27.3V）
- ・手動灯 点灯
- ・閉止弁開灯 点灯

操作箱

- ・電源灯 点灯
- ・手動灯 点灯

上記の表示灯が点灯しない場合や、他の表示灯が点灯している場合、またはブザーが鳴動している場合は異常です。すぐに非常電源装置のブレーカーを全てOFFにしてください。

「6 トラブル時の対処方法」を参照して対応してください。

3. 3 起動



危険

- 火災時に消火剤を放出するとき以外は、絶対に操作箱を操作しないで下さい。防護区画内に人がいると人命を損なう危険があります。
- 消火剤を放出するときは、防護区画内に人がいないことを確認してから行なって下さい。人命を損なう危険があります。
- 退避放送が放送されたらただちに防護区画外に退避して下さい。消火剤が放出され危険です。



警告

- 閉止弁は、点検時以外は常時「開」として下さい。「閉」では、火災時に消火剤が放出できず消火できません。
- 本制御盤は、消火剤の放出が開始されると途中で止めることは出来ません。火災が発生した防護区画をよく確認して放出して下さい。
- 消火剤の吸引事故に備え、人命救助用の自給式呼吸器を備えて下さい。
- 誤って消火剤を吸込んだ場合は、ただちに新鮮な空気の所で人工呼吸を施し、医療施設で処置を受けて下さい。
- 消火剤放出時には配管部分が冷却されます。常温に戻るまで触れないで下さい。凍傷の恐れがあります。
- 回路異常があると起動できません。ただし、回路異常が感知器断線、電源異常の場合は起動できます。

1) 自動起動方式

防護区画に2系統の感知器を設置し感知器作動信号で起動するか、または自動火災報知設備からの火災信号との組合せで起動し、消火剤を放出します。起動する条件は2系統が共に作動（AND回路）した場合です。

自動起動方式は、人が常時いない防護区画か手動起動方式が不適當な場合に限りです。

2) 手動起動方式

人が操作箱を操作し消火剤を放出します。

手動起動方式は自動と手動のどちらの状態でも可能です。

3. 4 自動と手動の切替え

a) 自動式（自動モード）

自動式に切替えるには該当区画の操作箱の自動／手動スイッチを自動に切替えてから定位にします。本制御盤と操作箱の自動灯が点灯します。

b) 手動式（手動モード）

手動式に切替えるには該当区画の操作箱の自動／手動スイッチを手動に切替えてから定位にします。本制御盤と操作箱の手動灯が点灯します。

3. 5 自動起動方式

1. 切替えスイッチを操作して自動灯を点灯させます。

2. 2系統の感知器のうち、1つの感知器が作動した場合

- | | | | |
|----|-----|-----|----|
| 1) | 制御盤 | 火災灯 | 点滅 |
| 2) | 制御盤 | ブザー | 鳴動 |

3. さらにもう1つの感知器が作動した場合

- | | | | |
|----|-----|-----------------------------|-------------------|
| 1) | 制御盤 | 火災灯 | 点灯 |
| 2) | 制御盤 | 放出遅延時間表示灯 | 放出までの秒数をカウントダウン表示 |
| 3) | 制御盤 | ブザー | 鳴動 |
| 4) | 制御盤 | 退避放送 | 鳴動 |
| 5) | 制御盤 | 機器停止信号等 | 作動 |
| 6) | 制御盤 | 開口部に閉鎖信号出力（連動扉、シャッター等がある場合） | |
| 7) | 操作箱 | 起動灯 | 点灯 |
| 8) | 操作箱 | 放出遅延時間表示灯 | 放出までの秒数をカウントダウン表示 |

※放出遅延時間表示灯が0秒になるまでに本制御盤の復旧スイッチか操作箱の非常停止押しボタンを作動させると、起動を停止させることができます。2つの感知器が作動した状態では、放出遅延時間がリセットされ、再度カウントダウンが開始します。

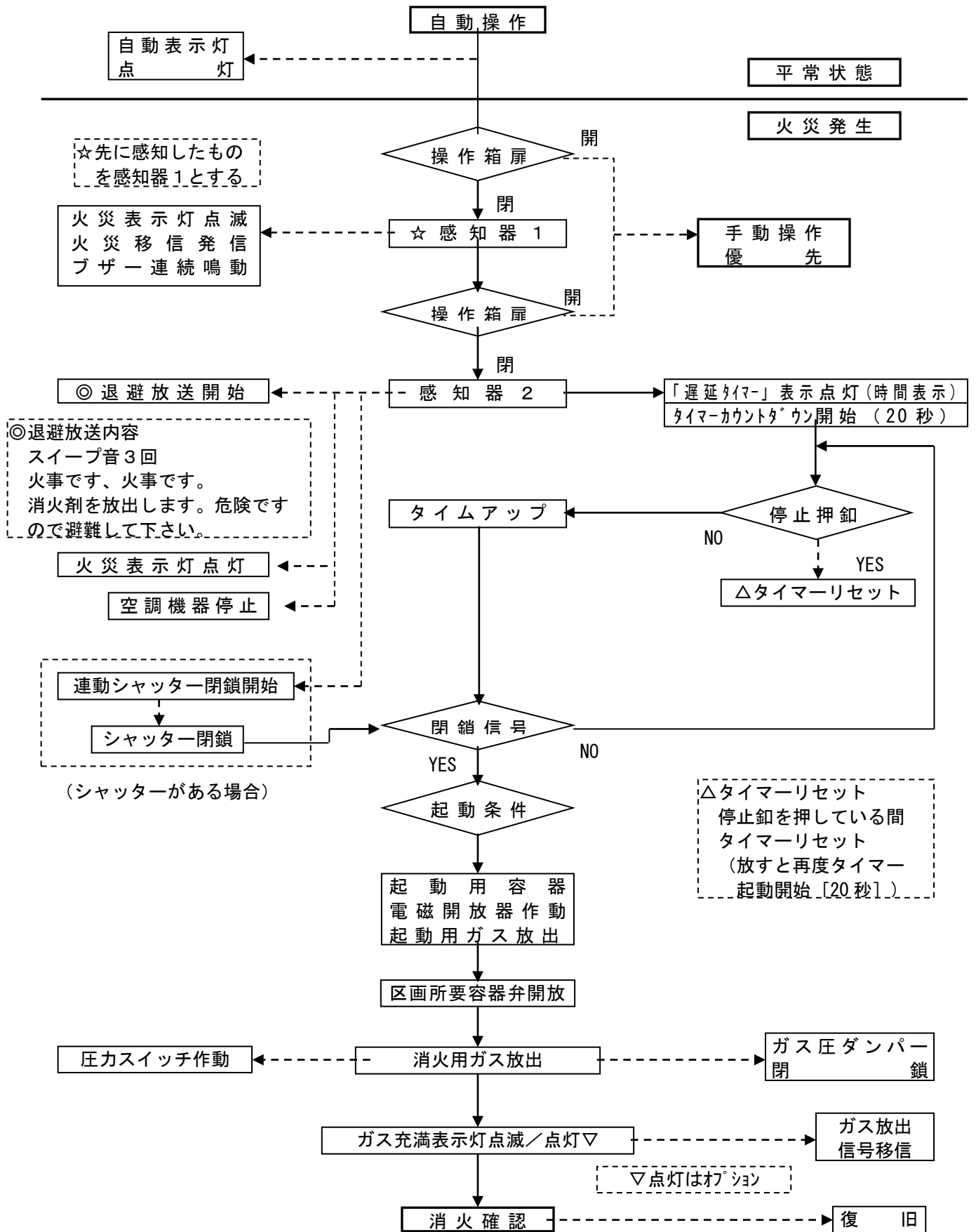
4. 放出遅延時間がタイムアップ後

- | | |
|----|----------------------------------|
| 1) | 開口部から閉鎖リミット信号発信（連動扉、シャッター等がある場合） |
| | ↓ |
| 2) | 電磁開放器が作動 |
| | ↓ |
| 3) | 起動用ガスを放出 |
| | ↓ |
| 4) | 貯蔵容器の容器弁を開放 |
| | ↓ |
| 5) | 区画内に放出 |

5. 消火用ガス放出後

- | | | | |
|----|---------------|-----|----|
| 1) | 区画の出入り口の放出表示灯 | 点滅 | |
| 2) | 制御盤 | 放出灯 | 点滅 |

3. 6 フローチャート（自動起動方式）



3. 7 手動起動方式

この方式は自動と手動のどちらの状態でも操作可能です。
また操作箱と同様の手動起動を本体のパネル操作部からも行えます。

1. 目視による火災確認

- 1) 関係者に連絡を取り応援を求める。
- 2) 消防署等に通報を行う。

2. 操作箱の警報扉を開く

- | | | |
|--------|------|----|
| 1) 制御盤 | 火災灯 | 点滅 |
| 2) 制御盤 | ブザー | 鳴動 |
| 3) 制御盤 | 退避放送 | 鳴動 |

3. 防護区画に人のいないことを確認する。

4. 有機ガラスの保護板を押し破り起動スイッチを押す。

- | | | |
|--------|-----------------------------|-------------------|
| 1) 制御盤 | 火災灯 | 点灯 |
| 2) 制御盤 | 放出遅延時間表示灯 | 放出までの秒数をカウントダウン表示 |
| 3) 制御盤 | ブザー | 鳴動 |
| 4) 制御盤 | 退避放送 | 鳴動 |
| 5) 制御盤 | 機器停止信号等 | 作動 |
| 6) 制御盤 | 開口部に閉鎖信号出力（連動扉、シャッター等がある場合） | |
| 7) 操作箱 | 起動灯 | 点灯 |
| 8) 操作箱 | 放出遅延時間表示灯 | 放出までの秒数をカウントダウン表示 |

※放出遅延時間表示灯が0秒になるまでに本制御盤の復旧スイッチか操作箱の非常停止押しボタンを作動させると、起動を停止させることができます。

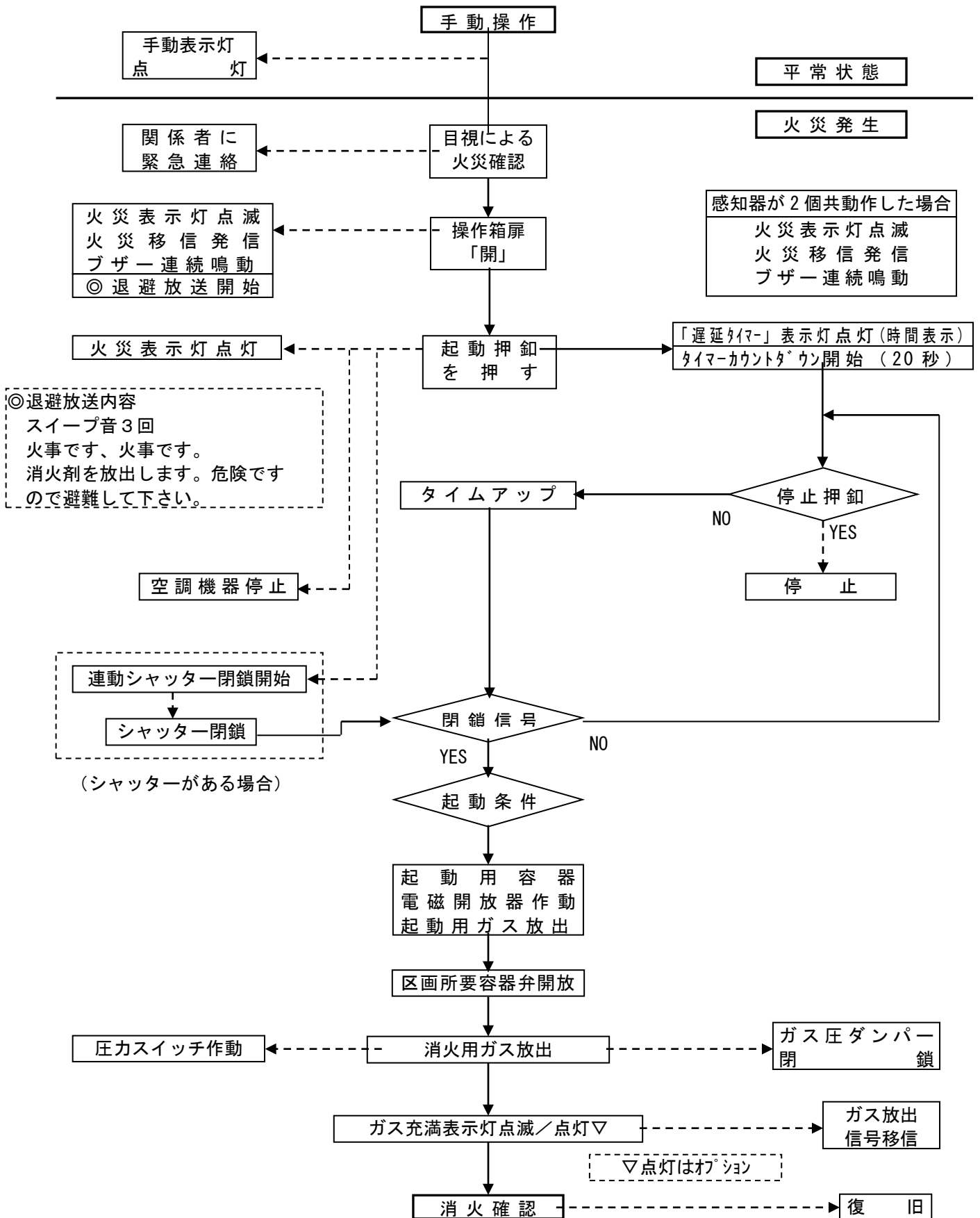
5. 放出遅延時間がタイムアップ後

- 1) 開口部から閉鎖リミット信号発信（連動扉、シャッター等がある場合）
↓
- 2) 電磁開放器が作動
↓
- 3) 起動用ガスを放出
↓
- 4) 貯蔵容器の容器弁を開放
↓
- 5) 区画内に放出

6. 消火用ガス放出後

- | | |
|------------------|----|
| 1) 区画の出入り口の放出表示灯 | 点滅 |
| 2) 制御盤 放出灯 | 点滅 |

3. 8 フローチャート（手動起動方式）



3. 9 消火剤放出後の嚴重注意事項



危険

- 復旧するまでは絶対に立ち入らないでください。消火剤が残留していると人命を損なう恐れがあります。
- 放出表示灯が点滅または点灯している時は、消火剤を防護区画内に放出した事を示します。放出表示灯は周囲が明るい確認しにくいので十分に注意してください。



危険

- 消火剤放出後、防護区画内に立入る場合は換気を充分に行い、酸素濃度計等により消火剤がないことを確認してから入室して下さい。消火剤が残留していると人命を損なう恐れがあります。
- 消火剤放出後の排気は消火剤専用排気ファンで行い、一般空調機系統ファンでは行わないでください。一般空調機では、他の居室に消火剤が流出し、人が居た場合に人命を損なう恐れがあります。
- 放出表示灯の復旧は、消火剤の排気および給・排気ファン運転により放出区画内の安全が確認されるまでは絶対に復旧しないで下さい。
- 未確認のまま復旧し放出区画内に立ち入った場合人命を損なう恐れがあります。



警告

- 消火剤貯蔵容器、起動用容器は高圧ガス取締法に従って慎重に取扱ってください。
- 誤動作をおこさぬよう必要な防止措置をおこなったうえで復旧・交換作業をおこなってください。

消火剤放出後は、下記の手順に従って消火設備を復旧させてください。

1. 防護区画内の消火剤を完全に排出してください。
区画の排気用空調機が制御盤からの機器停止信号により停止する構成の場合、操作箱の警報扉を閉めて本制御盤の操作パネル部の復旧スイッチ押してから、排気用空調機の運転を開始してください。
2. 防護区画内の消火剤が完全に排出されて、区画内が安全な状態になってから消火設備全体の復旧作業を行います。

4 オプション

本制御盤は次のオプション対応が可能です。

- A) 蓄電池容量
 - 標準仕様 : 15Ah
 - オプション : 7.2Ah
- B) シャッター閉鎖機能
 - 標準仕様 : なし
 - オプション : あり。放出遅延時間後とシャッター閉鎖リミット信号のANDで放出します。
- C) 機器停止信号タイミング
 - 標準仕様 : 起動時に機器停止
 - オプション : 感知器の作動または操作箱の警報扉が開いた時に機器停止
- D) 音声警報装置の2ch方式
 - 標準仕様 : 1ch。
 - オプション : 2ch。操作箱の警報扉を開いた場合、音声内容が次のようになる。「(スリープ音×3回) 火事です。安全を確認して起動ボタンを押して下さい。」
- E) 音声警報装置の音声内容のカスタム仕様
 - 英語、中国語、男性、女性、その他ご指定の条件で音声制作可能です。
- F) 放出表示灯の点灯表示
 - 標準仕様 : 点滅方式
 - オプション : 点灯方式

5 予備品／付属品リスト

本制御盤には次のものが付属しています。開梱時に確認してください。

- A) 本取扱説明書
- B) 施工要領書
- C) 検査成績書
- D) 蓄電池（バッテリー）
- E) 自動／手動キー 2個
- F) 封板

6 トラブル発生時の対処方法



危険

- 本制御盤や操作箱の内部から煙が出たり、異臭がする、または異常音がする場合は、ただちに本制御盤の非常電源装置のブレーカーを全てOFFにしてください。誤放出で人命を損なう危険があります。
- 本制御盤や操作箱の内部に水がかかったり浸水した場合は、ただちに本制御盤の非常電源装置のブレーカーを全てOFFにしてください。誤放出で人命を損なう危険があります。

トラブル発生時は次の項目を確認し対処してください。対策作業前に非常電源装置のブレーカーを全てOFFにしてから作業してください。

6. 1 トラブルシューティング

No.	現象	原因	対処方法
1	電源灯が点灯しない。	A) 制御負荷ブレーカーがONしていない。 B) 制御用ヒューズが溶断した。	A) 制御負荷ブレーカーをONする。 B) 配線が正しいか確認する。(短絡等) または、制御負荷が5Aを越えていないか確認する。
2	充電灯が点灯しない。	A) 停電中。 B) AC電源の配線がされていない。 C) 交流入力と整流器出力ブレーカーがONしていない。 D) 交流入力または整流器出力ブレーカーが働いた。	A) 電源の復旧を待つ。 B) 正しく配線する。 C) ブレーカーをONする。 D) 非常電源装置の故障。
3	回路異常灯が点灯した。	短絡、地絡、断線、電源故障した。	6. 2～5 参照

No.	現象	原因	対処方法
8	操作箱が正しく動作しない。	A) 配線が正しくない。 B) 配線抵抗が大きい。	A) 正しく配線する。 B) 往復 50Ω 以下になるように線材を選択し配線する。
9	操作箱の電源灯、自動灯または手動灯が点灯しない。	配線が正しくない。	正しく配線する。
10	感知器が作動しない。	A) 配線が正しくない。 B) 感知器終端抵抗の抵抗値が仕様と違う。 C) 配線抵抗が大きい。	A) 正しく配線する。 B) 10kΩ (1/4W 以上) を使用する。 C) 往復 50Ω 以下になるように線材を選択し配線する。
11	電磁開放器が作動しない。	A) 配線が正しくない。 B) シャッター閉鎖機能が有効でシャッターリミット信号が入力していない。	A) 正しく配線する。 B) 正しく配線し、信号を確認する。
12	放出表示灯が点灯または点滅しない。	A) 配線が正しくない。 B) 圧カスイッチが作動していない。	A) 正しく配線する。 B) 作動するように正しく配線する。
13	スピーカーの音が出ない。	A) 配線が正しくない。 B) 音声警報装置の音量調整が変更され出力されない。	A) 正しく配線する。 B) 音量調整を最大にする。
14	スピーカーの音が小さい。	A) 音声警報装置の音量調整が小さめに変更されている。 B) 配線が正しくない。 C) スピーカーのインピーダンスが合っていない。 D) 定格の音声出力を越えて接続している。	A) 音量調整を最大にする。 B) 正しく配線する。 C) スピーカを適切なインピーダンスに変更する。 D) スピーカー入力合計を 2W 以下にする。
16	ブザーが鳴らない。	ブザー停止スイッチが ON している。	ブザー停止スイッチを OFF する。

6. 2 短絡・地絡検出機能



警告

- 短絡・地絡検出機能が働いた場合は必ず原因を調査し適切に対処してください。誤放出の恐れがあります。

起動線に対して常時、短絡・地絡検出機能が働いています。組合せと故障表示は次のようになります。

配線 1 と配線 2 が短絡した場合に本機能が働きます。

短絡検出条件				表示		ブザー	回路異常 移報 ZET-ZET	放出 起動 回路
				盤内 表示灯	操作パネル 回路 異常灯			
配線 1		配線 2		点灯	点灯	鳴動	発報	
P1	電源+	SM	起動線	LA, LE	○	○	○	作動しない
AL	扉開	SM	起動線	LB, LE	○	○	○	作動しない
MC	非常停止	SM	起動線	LC, LE	○	○	○	作動しない
FG	筐体	SM	起動線	LD, LE	○	○	○	作動しない

6. 3 断線検出機能



警告

- 断線検出機能が働いた場合は必ず原因を調査し適切に対処してください。

重要な配線に対して常時、断線検出機能が働いています。組合せと故障表示は次のようになります。

配線 1 と配線 2 がペア配線で、片方または両方が断線した場合に本機能が働きます。

断線検出条件				表示		ブザー	回路異常 移報 ZET-ZET	放出 起動 回路
				盤内 表示灯	操作パネル 回路 異常灯			
配線 1		配線 2		点灯	点灯	鳴動	発報	
FD1	感知器 1	P1	電源+	LF	○	○	○	※作動する
FD2	感知器 2	P1	電源+	LG	○	○	○	※作動する
CV	電磁開放器	CV0	電磁開放器	LH	○	○	○	作動しない

※：操作箱による起動のみです。

6. 4 ヒューズ溶断



警告

- ヒューズが溶断した場合は必ず原因を調査し適切に対処してください。
本制御盤、接続機器が破損する恐れがあります。
- ヒューズは指定のものを使用してください。
本制御盤、接続機器が破損する恐れがあります。

制御用（P1 線）のヒューズ（5A）が操作パネル内に内蔵されています。
溶断原因と対処方法は次のようになります。

名称		溶断した原因	対処方法	表示灯	ブザー	放出起動
				点灯	鳴動	
FK1	ヒューズ	制御回路（P1 線）に過電流が流れた。	短絡等がないように正しく配線する。容量オーバーしないようにする。ヒューズを交換する。	充電灯以外はすべて消灯	×	不作動

交換する場合は次の部品を使用してください。

ガラス管ヒューズ 富士端子工業製 FGB0 250V 5A 直径 6.4mm×長さ 30mm

6. 5 停電および電源故障時の警報動作

充電器の故障による充電出力停止、又は商用電源が約 85%以下となると、直ちに次の警報動作を行います。

- 電源異常灯 LI（盤内表示）・・・・・・・・・・点灯
- 回路異常灯（操作パネル）・・・・・・・・・・点灯
- 回路異常移信（ZET-ZET）・・・・・・・・・・発報

この時、蓄電池の残存容量が可能であれば警戒及び放出起動回路は作動出来ます。

6. 6 非常電源装置の各ブレーカーの作動

- A) 交流入力ブレーカー
AC電源入力を遮断するブレーカーです。このブレーカーが作動した場合には、安定化電源の故障等により交流入力部が短絡している可能性があります。
- B) 整流器出力ブレーカー
安定化電源からの出力を遮断するブレーカーです。このブレーカーが作動した場合には、安定化電源の出力が過負荷になっている可能性があります。
- C) 制御負荷ブレーカー
蓄電池と安定化電源から、直流出力部を遮断するブレーカーです。このブレーカーが作動した場合には、制御ユニットへの直流出力が過負荷になっている可能性があります。

7 保守管理



警告

- 本消火設備は消防法等に準じ定められた期間毎に定期点検を行うようにしてください。
- 定期点検は消防設備士または消防設備点検資格者の有資格者で本消火設備に精通した人が必ず行ってください。
- 点検時には本消火設備の誤動作防止と安全対策を必ず行ってください。
- 外部接続機器や各種移報により、他の設備機器等の運転に支障がないよう、事前に充分確認してください。
- 防護区画の扉やシャッター付近に自動閉鎖の妨げになる障害物等がないことを確認してください。放出時に消火剤が外部に漏れると想定した消火効果が期待できません。
- 点検終了後はスイッチ、各種設定、外部機器、各種弁を定位または常時にセットされていることを確認してください。
- 蓄電池が正常に使える状態にあるか確認してください。寿命を終えた蓄電池では停電時に消火設備が正しく動きません。
- 貯蔵容器は、高圧ガス保安法に従い維持管理を行ってください。

7. 1 日常点検

定期的に次の点検を行ってください。

なお、正常な状態でない場合は「6 トラブル発生時の対処方法」を参照してください。

1. 本制御盤のパネル操作部のスイッチが押されていない（スイッチ注意灯が点滅していない状態）ことを確認してください。また直流電圧計が正常値である事を確認してください。常時の状態は「2. 7 ～2. 10」を参照してください。
2. 点検や操作するのに支障のある物が周辺にない事を確認してください。

7. 2 定期点検

定期点検は消防法の点検基準にしたがって行ってください。

7. 3 蓄電池試験

蓄電池試験スイッチを試験側にすると充電を停止し蓄電池に試験用の内蔵負荷抵抗が接続されます。徐々に電圧が低下し、約5秒間押し続けた後、直流電圧計が約24Vで正常です。

なお、充電灯は蓄電池試験スイッチを入れた時には消灯します。

正常範囲を下回る場合は蓄電池を交換してください。目安としては約3年です。

8 ご不明な点や故障に関するお問い合わせ先

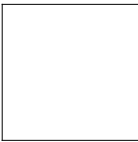
異常発生時は「6 トラブル発生時の対処方法」に従ってお調べいただき、それでも異常が解決されないときは、ご使用を中止するなど適切な処置をとってください。

修理に関するご相談ならびに、お取り扱いに関するご不明な点がありましたらお問い合わせ先（裏表紙）へご相談ください。

何らかの理由でお問い合わせ先にご依頼出来ない場合は弊社までご連絡ください。

次の情報を準備願います。

- 本制御盤の扉の内側に貼付けられている定格銘板の全ての内容のメモ
- ご不明点や故障などの異常な状況を説明いただける内容のメモ
- 取扱説明書、施工要領書

	<p>消火設備制御盤</p> <p>型式記号 MYTPF 1-A</p> <p>分類記号</p> <p>認定番号</p> <p>操作箱</p> <p>遅延時間 秒</p> <p>製造年 年</p> <p>製造番号</p> <p>モリタ宮田工業株式会社</p>
---	---

定格銘板
の例

お問い合わせ先

モリタ宮田工業株式会社 お客様相談室

〒253-8588 神奈川県茅ヶ崎市下町屋1-1-1

TEL (0467) 85-1210

メモ

